令和６年度　伊那市立西春近北小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
○　明るい子ども ○　あたたかい子ども ○　かしこい子ども ○　たくましい子ども	・楽しい学校・魅力ある学校 ・家庭・地域に信頼され、共に歩む学校 ・人を大切にできる子ども・しなやかな子ども
	今年度の重点目標
	⑴やってみよう（子ども） ①「できるかな」から「やってみよう」に一歩踏み出して挑戦しよう ②自分や友だちの良さを認め挑戦しよう ③自分で考えて「学び」を作っていこう ④堂々と自分の考えを表現できるようにしよう
	⑵やってみよう（職員） ①興味･関心･意欲を高める｢ひと｣｢もの｣｢こと｣と「やってみよう」を仕組む ②子どもとともに「やってみよう」と挑戦する ③子どもの「やってみよう」を支援する ④ＩＣＴも利用して情報を活用する力を伸ばす
	⑶やってみよう（保護者へのお願いとして） ①子どもの「やってみよう」を後押しする気持ち ②学校との緊密な連携 ③子どもを中心に据えたＰＴＡ活動への参加、協力 ④通学路における安全確保

総合評価

○小さな事案も一つ一つ丁寧に対応してきた。児童と教職員の関係が良好で各学級が児童の安心できる場になっている。児童同士も学年の枠をこえて仲が良く，サツマイモの栽培や清掃全校行事などを縦割り活動で行い，結びつきを強くしている。今後も教職員・児童・保護者・地域が緊密な関係性を大切にしながら，子どもたちのすこやかな部分を伸ばしていきたい。
○学習においては，特別活動・総合的な学習の時間を中心に弾力的な話し合いのスタイルで考えを持ったり伝えたりする授業に取り組んだ。タブレットを学用品の一つとして利用することで個人差を少なくし，どの子も自分から学ぼうという意欲につなげてきた。教職員はさらに研鑽を積み，見通しを持って意欲的に学習に取り組む子どもをめざしていきたい。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴・身近な合い言葉として「やってみょう」が浸透し、中核活動や探究的な活動を始め日々の学校生活の中で苦手なことや新しいことへ挑戦する姿につながった。 ・学期に１回相談週間を実施。一人一人と向き合う時間を確保し、児童の良さや想いに寄り添うことでその子の新たな一面に気づくことができ支援につながった。 ・アンケート調査から、児童は素直に話を聞き、まじめに活動に取り組める良さを持っているが自分から「発信する」「伝える」ことへの苦手意識が強いことがわかった。	A a	・「やってみよう」を合い言葉に，児童がやってみたいこと、もっと知りたいことにのびのびと取り組むために，職員の授業の準備，環境作りのため時間を確保する。 ・ＱＵアンケートや相談週間を活用した児童理解や集団作り、休み時間の個別対応や遊びなど、職員が子どもと一緒に過ごす時間の確保を勧め、安心して想いを伝え合える学級集団づくり・教員との関係作りの実現を目指す。 ・道徳や日常生活の中で「良さ」に目を向けた言葉選びや接し方について学びを深める。
⑵・地域の素材を掘り起こし、地域人材を活用した「ひと・もの・こと」を生かした学習活動を仕組むことで児童の教務･関心･意欲につなげることができた。また、中核活動、クラブ活動、学習支援など児童の「やってみよう」の充実を支援できた。 ・ＡＩドリルやスクールタクトを活用した課題や ICT を使った調べ学習やキャンバを使ったまとめの作成など、情報を活用する力を伸ばすことに取り組めた。	A a	・日課を見直すことで放課後に教材研究・学級事務の時間を確保し、子どもとふれあう時間の質の向上と学力向上を目指す。 ・前年度の活動実績から地域の材の価値を検証し、学級活動や生活科および総合的な学習の時間等を通して、さらに児童の興味･関心･意欲を高める活動を仕組む。 ・全校体育でのコオトレの導入，外遊びを奨励し，多様な動きの経験の場を保障する。 ・グループやペアでの話し合いの仕方を学ぶことを通して協働する力を育てていく。
⑶・学級の中核活動や行事への協力など児童や学校の「やってみよう」とする方向性を支持していただき、温かく支えていただくことで児童も職員ものびのびと活動できた。 ・学校から通知、資料、各便りなどをカラーで迅速・確実に手元に届けることで、活動内容や取組、子どもの様子を共有でき、双方向システムにより個別にも対応できた。 ・ＰＴＡ三役を中心にアンケートによる情報収集を行い組織改編に着手。大きな前進。	A a	・学校の教育活動や児童の生活の様子をこまめに伝える。 ・持続可能な行事の運営・ＰＴＡ活動の実現に向けアイデアを出し合い、全体を上手に巻き込んだ活動が少しでもできるように配慮する。既存の行事(運動会・ウォークラリー・登山など)を活かすことで，児童中心に一体感が生まれる活動を実施していく。 ・ＰＴＡ組織改編の流れの中で、安全見守りの新しい仕組みづくりの検討を投げかける。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○子どもや保護者，地域の願いや実態に寄せて，特色ある教育活動を行っている。	①地域の実態に寄せた本校の教育課程に沿って，適切な履修がなされている。 ②地域との交流を目的とした行事や教育活動が行われている。 ③縦割り班活動など，学年の枠をこえた教育活動に取り組んでいる。	・昨年度よりさらに、多くの地域の方々が教育活動や行事にかかわってくださり，地域素材や地域人材を生かした教育課程編成が活発に行えた。 ・交流活動や行事を活発に行うことができた。児童の興味･関心に寄せた授業支援や行事支援、クラブ講師など、地域の方々と関わり、積極的に学ぶ機会が多く持てた。 ・縦割り活動の結果，高学年児童のリーダー性が高まり，主体性がついてきた。保護者からの縦割り班活動の良さや成長を感じる声など活動継続に期待する意見が多い。	A a	・コミュニティスクール「ごんげんまなびや応援隊」の運営委員会を活かして、学校の課題を共有し、地域も「同じ目標」を掲げることで、地域・保護者を巻き込み、誰かだけがやるのではなく「既存の行事もみんなでやる」自分ごととなる意識を広められるよう働きかけ仕組み作りを進める。 ・交流の機会を「豊かな心情を育てる」機会として今後も大切にしていく。 ・縦割り活動の効果を検証しながら，教育課程編成に活かしていく。
	学習指導	○子どもたちは、進んで学習している。	①課題解決に向かって，一人一人の進度に合わせて取り組む授業づくりを行っている。	・高学年で単元内自由進度学習を取り入れたり、グループ学習での学び合いを行ったりすることで主体的で対話的な授業に近づけることができた。	B a	・生活科や総合的な学習の時間を通して、課題を持って取り組むことや探究する楽しさを味わう体験や学習を積み重ねることで、課題意識や探求心を育んでいきたい。
		○子どもたちは、授業がわかりやすいと感じている。	①基礎・基本の定着 ②ねらい(つける力)を明確にし，カードを使って授業の流れにメリハリをつけ，ねらい達成の見届けを行っている。 ③わかりやすい授業のための ICT の活用。 ④授業の振り返りを行っている。	・ドリルの時間を位置づけ，短時間でも既習事項について反復学習を行いながら基礎・基本の定着を図ってきた。成果については個人差があるが，個別指導、複数対応での指導をした。個別指導が必要な児童への支援の工夫が今後も必要。 ・タブレットを利用することで個々の苦手を補うことができ、学習内容や自分の考えを仲間と共有する為のアイテムとして広く有効活用できている。 ・担任、授業に関わる教職員との関係性が良く、どの児童も安心して自分の考えを述べやすいあたたかな学級経営ができていることで学習効果も高まっている。	B a	・さらなる定着をめざし，定着の度合いをていねいにみていくようにする。必要に応じて個別指導を行っていく。 ・iPad の使用法、ICT の活用など、お互いの授業でどのような使い方がされているか授業公開で見合い，研鑽を深めていくとともに AI ドリルの活用で定着を目指す。 ・ひとりひとりの児童の実態をつかみ，確かな学力がつくよう，「わかりやすさ」を視点に授業を行っていく。 ・算数専科・教科担任の専門性を活かした授業づくりを行っていく。
	生徒指導	○子どもたちは，友だちとよりよくかかわり，楽しく学校生活を送っている。	①学級の児童の実態把握と対応が図られている。 ②どの子にも居場所があり，いじめや不登校が起こらない学級づくり ③保護者と連絡・相談を密に行っている。 ④児童理解を共有し，組織的な対応が図られている。	・Ｑ－Ｕアンケートの活用や，個人面談を行い，児童ひとりひとりの思いを共有した。 ・コミュニケーションをとることが苦手な児童もいるが，明るく仲よく過ごしている。授業を通して人間関係をよりよいものにしようと話し合い認め合う場を設けた。 ・職員の声がけや指導について、型にはめない新しい価値観を学ぶ必要性を感じた。 ・イントラネット内に記録を書き込んで記録し情報共有を促すとともに、連絡会議において児童理解の時間を必ず取り，全職員で児童について共通理解を図った。	A a	・Ｑ－Ｕの客観的な結果を活かした学級経営や相談週間を継続する。 ・市のアンケートで子どもたちの友だち関係を把握し，丁寧に支援する。 ・一人一人の児童の姿に気を配り，少しの変化も見逃さず，迅速に組織で対応する。気になる姿も良い姿もこまめに伝えることで保護者と会話し信頼関係を築く。 ・連絡会議における児童理解の時間は継続する。これに限らず，日常的に児童の話題を共有しあえる職員集団をめざし、常にチームで対応する。
学校運営	安全	○子どもたちが安心・安全に活動できるように，校舎内外の環境への配慮をし、災害への対応（自然災害・火災）や交通安全など，安全面について適切に指導している	①定期的に点検が実施され，安全への配慮がなされている。	・施設設備管理は，月１回「安全点検日」に定期的点検が行われ，校務技師の修理も敏速に行われている。 ・校務技師，教頭を中心に，安全に関して校舎内外に目を配った。	A a	・校舎も老朽化しており，施設設備の点検はより確実さが求められる。定期点検はもちろん，毎日の点検を着実に実施し，早期発見，早期対応を心がける。また，日頃から複数の目で点検し，気づいたことを伝え合いながら改修・整備に取り組んでいく。
			①危機管理意識を常に持ち，災害や事故に対する指導を行っている。	・地域・PTA に広くご協力をいただき、昨年度立ち上げた「ながらみまもり」を継続。「避難訓練」「防災ドリル」「熊の学習会」などで自分の身を自分で守ることを学んだ。 ・食物アレルギーへの対応についても年に複数回研修を行い，保護者への確認も厳密に行うことで不測の事態に備えた。	A a	・危険回避に対する学習を重ね知識理解を深めることで「自分の身は自分で守る」意識を高める。改善を図っていく。PTA と一緒に安全見守り体制を検討していく。 ・食物アレルギー対応(特にエピペン所持児童)については情報を更新し，適切な対応が図れるようにしておく。早期に職員の研修を行い、児童への個別対応を確認しておく。
	地域との連携	○学校だよりや学級通信，学級懇談会、学校ホームページ等を通して，学校や学級の様子をわかりやすく伝えている。	①開かれた学校をめざし，学校や児童の様子について伝え，地域・家庭・学校の連携に取り組んでいる。	・学級の様子が伝わることで，保護者も児童も安心して学校生活を送れるよう，おたよりに写真や児童の感想などを盛り込み，学級だよりや学校だよりを配慮することができた。さらにこまめな配信を心がけた。 ・学校の様子が地域にも伝わるよう，学校だよりを月１回地区内に配布した。また，プレスリリースを積極的に行い，新聞やテレビ，有線放送も活用することができた。	A a	・学級だよりや学校だより、学校ホームページは，今後もわかりやすさとスピーディーさを心がけて配布・配信に努めていく。また，プレスリリースも積極的に利用し，児童の活躍の様子を広く地域に向けて発信するよう心がける。双方向型通信システムの有効利用を進めていく。
		○ＰＴＡや同窓会などの諸団体と連携を深め，家庭や地域の方に開かれた学校づくりをめざしている。	①ＰＴＡ，同窓会，子ども見守り隊，西春近北保育園，春富中等の関係団体や地域にお住まいの講師との交流や連携が図られている。	・「ごんげんそば打ちの会」「注連縄教室」「ウォークラリー」「マラソン大会」などの諸行 事や，総合的な学習の時間・クラブ活動における地域講師や保育園との交流を通して，地域とのかかわりを大切に多くの行事を実施できた。 ・えがおの庭活用のため、同窓会によるジャンボ滑り台の補修を行えた。また、PTA の尽力でスケート場作りが今年もでき、１・２年生が冬の体育の授業として取り組ん	A a	・学校を支えてくださる諸団体の方々との連携を今後も深める。 ・コーディネーターのお力を借りながら，地域と学校が児童の活動を通して結びつけるようにしていく。 ・関係団体と協議しながら，子ども達にとって大切と思われる活動は持続可能な実施の方向を模索していく。（誰かだけでなく、「みんなで一緒にやる」仕組みの構築）

					だ。		
	研修	○子どもたちは、授業が分かりやすいと感じている。	①児童が主体的かつ探究的な学びに取り組むよう，自己課題に寄せた日々の授業改善に取り組むとともに，授業研究が推進されている。		・教科担任制を取り入れ，一時間一時間の授業を大切にしている。ひとり一公開を行って広く授業を見合い学び合うことができた。会議の精選や取組の工夫により放課後に教材研究や学級事務の時間が取れるよう試行中。 ・キャンバなどの共同編集機能を利用し、タブレット内で意見交換やプレゼンやまとめの作成を行うなどＩＣＴを有効に利活用し、協働的な学力へつなげることができた。	Ｂ ａ	・授業公開を継続していく。４５分間参観して研究会を行うスタイルばかりではなく、教師の自己課題への取り組みと主事要請の授業研究会も取り入れ，研究が教師の身近にあるような体制をつくる。 ・教材研究を活発化したり、指導主事訪問を積極的に活用したりして、自己課題解決・新しい指導方法について研究をより身近なものにしていく。
		○子どもや保護者，地域の願いや実態に寄せて，特色ある教育活動を行っている。	①教職員自身の資質向上をめざし，校内外における各種研究会や研修会に積極的に参加している。		・ＱＵ研修，ＡＥＤ操作，救命救急法，非違行為防止、ICT、コーディネーション，国語・算数教材研究研修などの研修を行い，研鑽を深めた。また，センター研修を始め各種研究・研修会に，職員が積極的に参加し、その知見を校内に広める姿が多く見られた。安心して研修に出ることができる補充体制を充実させたい。	Ａ ａ	・今後も教育公務員としての資質向上をめざし，必要な研修を計画的に行っていく。 ・職員の持ち味や特技が発揮されるような研修を計画し、同僚性を高める。 ・フィールドワークを行い、職員が地域に出かけ、地域を知ることで、生活科や総合的 な学習の時間の充実をはかり、地域とのつながりをさらに深めていく。 ・校外の研修参加を勧めるにあたり、なるべく研修日が重ならないよう申込時に丁寧な摺り合わせを行うことで補充体制を計画的に組み安心して参加できるようにする。